

<p>23 : 移行期における乳房炎新規感染の予防に対するディッピングの効果及び乳頭先端スコアの変動</p>
<p>畜産科学科 食料生産科学講座 古村圭子・手島祐樹</p>
<p>メールアドレス kfuru@obihiro.ac.jp</p>
<p>研究の概要</p> <p>【目的】 分娩直前期は、新規乳房内感染(以後 IMI)が起りやすい時期にもかかわらず、その予防対策が進んでいない。外部型ティートシール(以後シール)は、乳頭先端に薄い膜をはって乳頭口を物理的に保護することにより、乳頭内への細菌の侵入を防ぎ IMI を予防するための市販製剤である。そこで、このシールを分娩直前期に使用して、この時期の IMI に対する予防効果があるかを調べた。また、このシールが乳頭先端に付着している日数(付着日数)を調査し、予防効果との関係について検討した。</p> <p>【方法】 1)2002 年の 5 月から 11 月まで、帯広畜産大学附属畜産フィールド科学センターの分娩を控えた未経産牛 13 頭と経産牛 13 頭を用いて実験を行った。各牛において対角の 2 乳区を処置乳区、残り2乳区を無処置のコントロール乳区とした。処置乳区には、分娩予定日の 9 日前に1回目のシールのとり着けを行い、分娩までにそれが外れたら 1 度だけ着け直し(2回目のとり着け)を行った。また、その間毎日シールの付着状態の観察を行い、付着日数を調べた。2)未経産では分娩後に、経産では乾乳前と分娩後に乳サンプルをとって細菌検査を行い、それらの結果から分娩直前期の IMI の有無を判定した。</p> <p>【結果】 1)シールの付着日数は2~4日が多かった。今回の実験では予定日の9日前からシールを着け始め、シールの着け直しは 1 度しか行わなかったために、分娩が予定より遅れると、分娩前にシールの着いていない期間ができた。そして、分娩までシールが着いていた乳区では IMI なしが多く、シールのない期間が 3 日以上乳区では IMI ありが多かった。2)今回の実験牛群では、経産は未経産より分娩が遅れやすく、このシールのない期間が長い傾向が見られた。したがって、未経産と経産に分けて IMI 予防効果の有無をみると、未経産では、処置乳区で IMI なしが多く IMI ありが少なかったことから、予防効果がみられるという結果になった。一方、分娩が遅れがちで分娩前にシールがほとんどはがれる傾向にあった経産では、処置乳区とコントロール乳区との間に IMI の差が無く、予防効果はみられないという結果となった。</p>